

村山朝偉の 古代文字

一郎 二と郎を逆に書いた。二は数を数える算本を二本重ねた様子で、ほかにない、二つとない、という意味。郎は水がまっすく流れていく様子、人を表す部分が加わる。全体ではまっすくで男ぶりのいい人物の名前となる。(むしやま・ともひで)



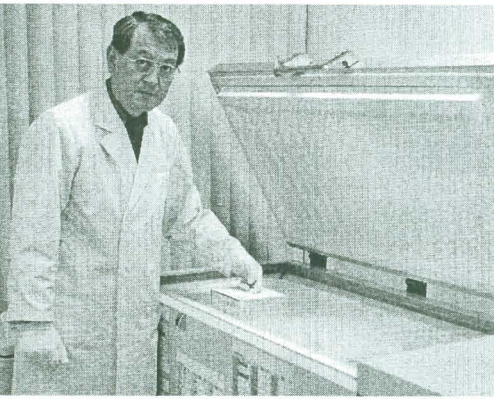
手術 抗がん剤 放射線治療に次ぐ「第4のがん治療」として注目される「免疫療法」。人間が元来持っている自分の免疫力を科学的に高めてがん細胞を押し返さそうという治療法で、近年多くの医療機関が導入している。そんな免疫療法のなかでも最近注目されているのが、セレンクリニック診療部長の高橋弘医師が取り組む「樹状細胞」を使った治療法。

従来は医療廃棄物だったがん細胞を利用 免疫細胞に食べさせ自分の悪玉を学習

専門で選ぶ 名医50人

セレンクリニック(東京・港区) 診療部長 高橋弘さん

「リンパ球は免疫細胞のなかで、がん細胞を認識して攻撃する。リンパ球は免疫細胞のなかで、がん細胞を認識して攻撃する。リンパ球は免疫細胞のなかで、がん細胞を認識して攻撃する。」



院内に設置されたプライベートがんバンクでは、患者から預かったがん組織に特殊な処理を施し、マイナス140-150度で冷凍保存する

「他の免疫細胞が認識できるようにする役割を持つのが樹状細胞だが、それに患者自身のがん細胞を食べさせることで患者のがん細胞固有の特徴を認識させる。樹状細胞はリンパ球に指令を出す役割も担っているのだから、リンパ球には情報を送らなければならない。リンパ球はそれに基づいてリンパノードでがん細胞に集中攻撃をかけることができる。」

苦痛も無駄もない治療

「樹状細胞療法をするには、小指の先ほどの大きさのがん組織が必要です。それが不可能な時には、がん組織の代替物を使うこともできますが、制限があるので、やはり自分のがん組織を使うのが理想的です。」



■クリニック情報 東京都港区白金台2ノ10ノ2 (都営地下鉄浅草線・「高輪台」から徒歩3分) ☎03・3449・6095。樹状細胞療法のほかにも活性リンパ球免疫療法や血管新生抑制療法などを行うがん治療の専門クリニック。治療以外にも、手術で摘出したがん組織を保管しておく「プライベートがんバンク」を設置するなど、高い専門性を駆使した医療サービスを行っている。

IT社会で困ってます。 グリコ GABA... ストレス社会で困るあなたに。 コーヒーを飲んでほっとしよう。

「サイエンス誌」に発表、同大内科助教授、2000年同大准教授などを経て現職。現在、米国癌学会正会員、日本臨床分子医学会評議員、日本レジーナ学会評議員、米消化器病学会評議員、日本肝臓学会東部会評議員、日本消化器病学会関東支部評議員など。医学博士

また、肉眼ではがんがとらぎれてはいても、体内に散らばっている微小がんをたたく、たたく。転移している可能性がある場合は、将来的な樹状細胞療法を見越してがん組織を保存しておくことも、これからのがん治療におけるひとつの考え方といえる。

お申し込み方法は2つ! ①全国のローソン店頭での「Loppi」でご予約 ②郵便局窓口! 郵便局窓口でお申し込みの場合は、郵便振替で郵便番号・住所・氏名・電話番号・購入個数を明記し、郵送料500円(10シートまで同額)を添えてお申し込みください。郵便窓口では別途払込手数料(振替金額1万円以下の場合100円、10万円以下の場合120円)が必要となります。※取扱期限:平成18年12月31日

限定保存版 連続フルイニング出場 金本知憲 世界新記録 達成記念 1999年から始まった金本知憲選手の連続フルイニング試合出場は、2006年4月、ついに世界新記録に達した。その輝かしい勇姿を切手シートに再現。数々の写真で彩る特製切手台紙に取ってお届けします。さらにスペシャルプレゼントも付いた限定保存版メモリアルグッズ。この機会をお見逃しなく!